



北見西ロータリークラブ会報

2024～2025年度クラブテーマ

《明るく・楽しく・元気よく

《上げよう親睦の輪！深めよう絆！育もう奉仕の精神！》

こころ

■創立日 昭和46年4月29日(1971/4/29)
 ■承認日 昭和46年5月27日(1971/5/27)
 ■例会場所 ホテル黒部(7条西1丁目)
 TEL 23-2251
 ■毎週木曜日 12時30分～13時30分
 ■事務局 TEL 25-2824

■会長 西村 清一 ■会長エレクト 松井 順仁
 ■副会長 山本 英敏 ■幹事 迫田 圭太



第2500地区ガバナーテーマ

「ロータリーに参画しましょう！ 誰かのために、あなたのために、自分のために」

本日のプログラム

第2511回例会

2024年12月19日(木)

ホテル黒部

年末忘年夜間例会

親睦活動委員会

第2510回 例会記録

2024/12/12

会長挨拶

西村会長



皆さん大変お疲れ様でございます。今日もたくさん
 さんのメンバーにご参加いただきまして有難うござ
 います。そして今日、ビジターで北見RCから
 坂井様がお越しになっております。大変緊張して
 おります。私のJC時代のアカデミー委員長をして
 いただいたお方なので、大親分と私は思っており、何故に私
 の会長時にお越しになったのかとそんな思いでございます。

先週もたくさんさんのメンバーにご参加をいただきました。メー
 クアップの数字は入っていませんが、83.6%でもう少し上積み
 をして欲しいと思っております。そういう時に限って、石田委
 員長お休みでございます。そして、内藤副委員長もお休みで
 した。そして、委員の丸茂さんもお休みでございます。先週
 発表できなかったのは委員会が全滅だったからだと思えます。
 メークアップを入れると、きっと88%位はいくのだろうと思っ
 ております。年間の出席率88%を何とかクリアしようと7月か
 らやってきておりますが、何とか順調に上積みされている状況
 かと思いますので、今後も石田委員長宜しくお願い致します。
 なるべく欠席の無いようお願いしたいと思います。

さて、先週は佐藤(卓)会員の卓話がございました。実は私
 も以前からお付き合いはあるのですが、音楽やギターにあんな
 に精通しているとは全く知らず、ギターを作ったり、音楽を演じていたことを初めて知りました。当
 クラブにもギターが好きで、歌が好きで、そして自分の卓話で何故かギターの弾き語りをした親睦活
 動副委員長がいらっしゃいますけれども、いつかお二人でコラボしていただいて夜間例会などで演じ
 ていただければ幸いです。

今年の例会も今回を含めて残すところ2回となりました。来週の忘年例会は夜間になります。親睦
 活動委員会のメンバーにご苦労をお掛けしているところではありますが、ぜひ楽しい例会にしてい
 だきたいと思っております。

さて、先週は「小善は大悪に似たり」という一言をご紹介しました。本日は「思いは必ず実現す

天気  (例会時) 最高気温 -4℃



昼食

スープ
 タンドリーチキン サラダ添え
 大根キーマ
 ライス デザート
 コーヒー

■ビジター 市川親睦活動委員

坂井 浩さん(北見RC)

■ニコニコボックス 長尾親睦活動委員

内藤会員
 先日、30年振りに学生時代を過
 した街に行ってきました。少し若
 返りました

る」という一言を紹介させていただきます。「物事を必ず成功に導こうとするなら強い思いを持たなければなりません。ただ思うだけでも思いは私たちの人生を作り上げていきます。それが潜在意識まで浸透していくような強い思いであれば、その思いはもっと実現に近づいていきます。更にその思いをより美しく純粋なものにしていけば、更に大きなパワーが生まれて実現していくはずです。自分の思いや目標が実現できないのではないかという恐れや疑いはいささかなりとも抱いてはいけません。必ず実現できるだろうという固い信念と強い意志を持ってひたすらに努力を重ね、日々創意工夫を図っていくことが大切です。」こういう内容でございます。何かおきづきをいただいた方はいらっしやいますでしょうか。誰かお一人でも今のお話で何かきづいていただければ幸いです。

さて、本日は疾病予防と治療月間に因んでということで北見市医療・介護連携支援センター センター長の関様がご越しになります。人口減少社会における医療と介護の連携と意思決定支援をテーマにご講演をいただくことになっており、楽しみにしているところです。

短い時間ではありますが、楽しく実のある例会であることを念じて例会冒頭の会長挨拶とさせていただきます。

幹事報告

迫田幹事

- 1) 来月1月16日18時からクラブ協議会を開催致します。出席義務となられている方にはレターボックスへご案内を配布しておりますので、ご確認のうえ参加をお願い致します。
- 2) 2024-2025年度ガバナーノミニー・デジグネートについて報告致します。12月7日に指名委員会を開催し、帯広南RC会員の小田衣代君を指名する旨の報告を受けましたことをご報告致します。
- 3) 来年1月1日の北海道新聞に3RCの年賀広告が掲載されますのでご確認お願いします。
- 4) 事務局の年末年始休暇は12月28日から1月6日までとなっております。

委員会報告

IM実行委員会 佐藤（尊）幹事

来年4月5日に開催されますIM告知ポスターが出来上がりました。例会終了後に皆様に配布させていただきますので、宣伝活動を宜しくお願いします。特別公演には一般参加者を募り先着100名参加できます。参加申込書も配布させていただきますのでご周知のほどお願い致します。

プログラム

ゲスト卓話「人口減少社会における医療と介護の連携と意思決定支援」 北見市医療・介護連携支援センター センター長 関 建久 氏 人間尊重委員会



山口人間尊重委員長より北見市医療・介護連携支援センター センター長 関建久 氏の紹介の後、関氏より「人口減少社会における医療と介護の連携と意思決定支援」と題して卓話をいただきました。

人口減少社会における 医療と介護の連携と意思決定支援

北見西ロータリークラブ 例会卓話

2024.12.12
北見市医療・介護連携支援センター
(医療法人社団高翔会 北星記念病院)
ソーシャルワーカー 関 建久

講演要旨

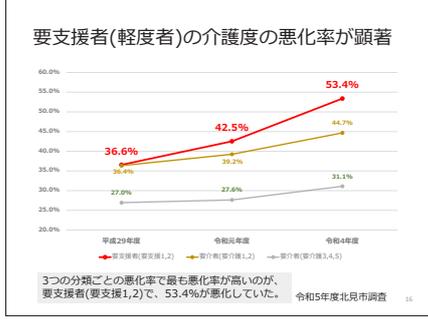
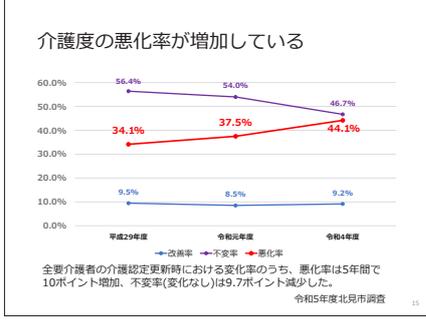
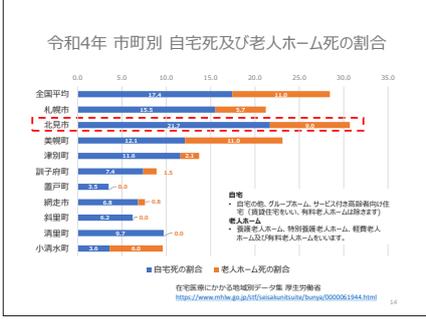
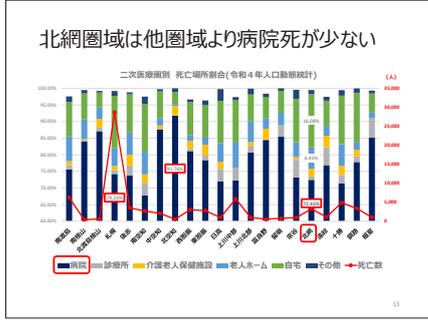
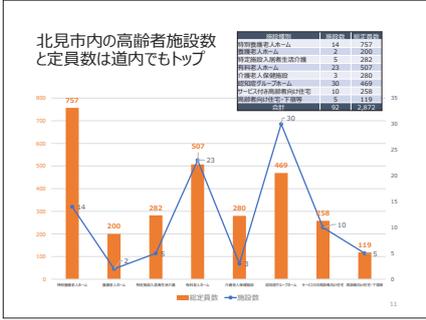
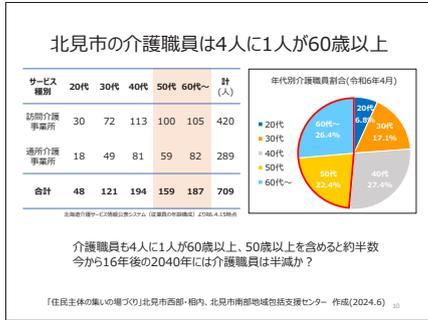
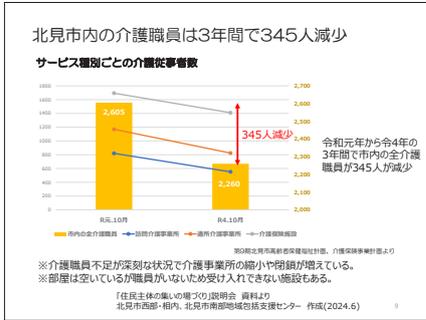
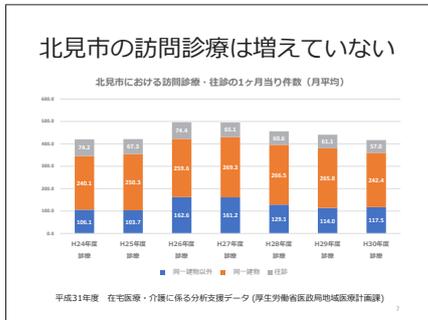
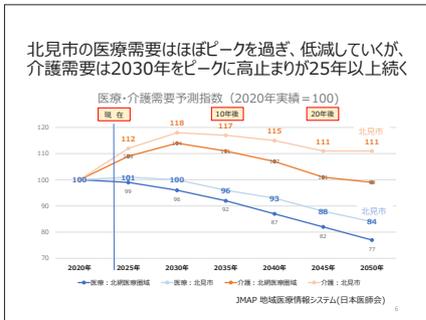
- ・北見市の施設等で働く介護職員は令和元年から令和4年の3年間で345人減少しました。市内の開業医も高齢化しています。
- ・人口減少社会によりこれまでの医療と介護サービスが持続出来なくなる時代が間もなく到来します。どうすればいいのでしょうか。
- ・対策は住民自身が健康でかつ介護を受けないでいる自主的な取り組みです。その上で医療と介護が協力して過不足のないサービスを提供できる仕組みが求められます。
- ・さらに大切なことは、やがて来る自分の「死」に際し、どのような医療・介護サービスを受けたいか自身で考えるときに、日頃からご家族等と話し合っておくことです。
- ・北見市医療・介護連携支援センターでの取り組みで見えてきた課題と取り組みについてお話しいたします。

本日の内容

1. 北見市の人口動態と医療・介護資源の減少
2. 医療・介護場面の課題
3. 対策

北見市の85才以上人口が増加する





北見市の人口動態と医療・介護資源の減少

- 2040年は団塊の世代が全員90才以上になるで、日本の死亡者数ピークに達する。
- 北見市の85才以上人口は、2025年から2040年の15年間で1.4倍に増加する。
- 85才以上の要介護認定率は57.7%(全国平均)であり、北見市では2030年から介護の需要が年々数十年前に達する。
- 医師、特に訪問診療を実施する医療機関や医師が少なく、開業医も高齢化している。
- 介護職員が高齢化し、かつ減少している(3年間で350人減少)。
- 北見市における自宅死や老人ホーム死は、道内他市町に比べて相対的に高い。
- 要介護認定における要支援(1,2)など、軽度者の悪化率が高い。

本日の内容

- 北見市の人口動態と医療・介護資源の減少
- 医療・介護場面の課題
- 対策

2040年の北見地域の医療・介護の様子 何もしないとどうなるか(闇の予想)

医療の様子

- 高齢の医師診療所が閉鎖。病院へ高齢の外來患者が増え、待ち時間を患者の受診待ちが長くなり、その結果、高齢者の救急搬送数が増加。
- 救急医療機関は認知症を併発する入院患者対応を要し、救急は治療しても認知機能低下が進行し、自宅復帰困難な患者が医療機関で多く出られるが施設がない。
- 高齢症患者で救急で受け付けられず、集中治療が必要な患者が入院治療できない。

介護の様子

- 介護支援専門員が不足し、ケアプラン作成がいつまでか介護職員不足で施設へのケアに空床はあるが介護職員不足のため、入所できない。
- 急性期病院から直接自宅退院する認知症・高齢者が増加。介護する人(パー）や家族が必ず「自宅一人死」のリスクが毎日高まる。
- 適切な介護サービスが受けられず、軽度者(要支援)があつても介護度が悪化する。

北見市における在宅医療と介護の課題

通院できなくなると、医師の診察が受けられない(医療難民)

- 訪問診療を行う医療機関や医師が不足している

自宅へ施設で暮らしたいと思っても暮らせない(介護難民)

- 介護福祉士やケアマネジャーが急激に減少している

救急で病院運ばれた際、どこまで治療をするかの本人の希望が不明確なため、救急医から短時間で家族が判断を迫られる(人生会議は家族のため)

- 本人の医療やケアの意思が決まっていない

自宅へ施設で暮らせない退院できず、救急病院で新しい救急患者さんの受け入れができない大きな社会問題となる(救急医療が崩壊)

- 介護職員不足の問題は救急医療の問題につながる

かかりつけ医の対応で搬送を中止し、本人の意思が叶った例

重度の肺炎患を抱えていた男性。日ごろから妻に「最期は自宅で」と話し、かかりつけ医療機関でもカルテで共有していた。

ある日心臓停止となった際、家族は慌てて119番した。救急隊からの連絡で事態を知ったかかりつけ医師は、男性の希望を救急隊員へ伝え、自宅へ駆けつけ家族と一緒に最期を看取った。(搬送辞退)

かかりつけ医が対応できなかった場合、救急隊は救命処置を行い医療機関へ搬送せざるを得ない。

【資料】救急医療連携 医療(救急活動の事例) 救急活動は、救命を主とし、傷病者の状態が必要な処置を施した後、速やかに医療機関へ搬送することを原則とする。

令和5年6月11日の北海道新聞(総合)記事を参考に医療介護支援センターが作成、加筆

高齢者施設における救急医療

- ある救急救急センターの夕方、4名の患者がいた。最年齢96才、最年少92才。このうち3名が高齢者施設からの搬送だった。
- それぞれの状態は、①SpO₂ 60%、血圧70台、②SpO₂ 80%、③口内出血性、④肺炎患、SpO₂ 80%だった。
- 患者4名全員が急変時と心停止時の対応を話し合ったことがなかった。緊急で家族と話し合いを行った結果、看取り1名、入院2名、抹めた事例が1名だった。
- 担当医師が感じたこと。
 - なぜ、高齢者施設入居者は、急変時や心停止時Code status(患者本人に同意するか、拒否するかの意思)を話し合っていないのか?
 - なぜ初対面でも、こんな大切な決断を短期間で下さなければいけないのか?
 - 蘇生不希望(医療者)何となく誘導していないか?
 - 施設では、自然なお看取りは出来ないのか?
 - 施設では、「高齢者の死」に対して慌てずしてはならないだろうか?

札幌中央区在宅ケア推進協議会「高齢者施設における在宅医療と救急医療」 高齢者ケア推進センター 編集 大森 札幌市高齢者ケア推進協議会 2023.7

